

心雑音に潜む病気 ～心臓弁膜症の話・主に大動脈狭窄症～

皆さん、健康診断や定期受診などでお医者さんに聴診された際、「心臓に雑音がありますね」と言われたことはないでしょうか。

心雑音は、主に聴診器を通して聴かれる音ですが、思わぬ重大な病気のサインであることがあります。もちろん機能性雑音・無害性雑音といって問題ないものも多く、貧血や発熱・ホルモン異常など直接心臓に問題がない場合でも雑音は聴かれることがあります。

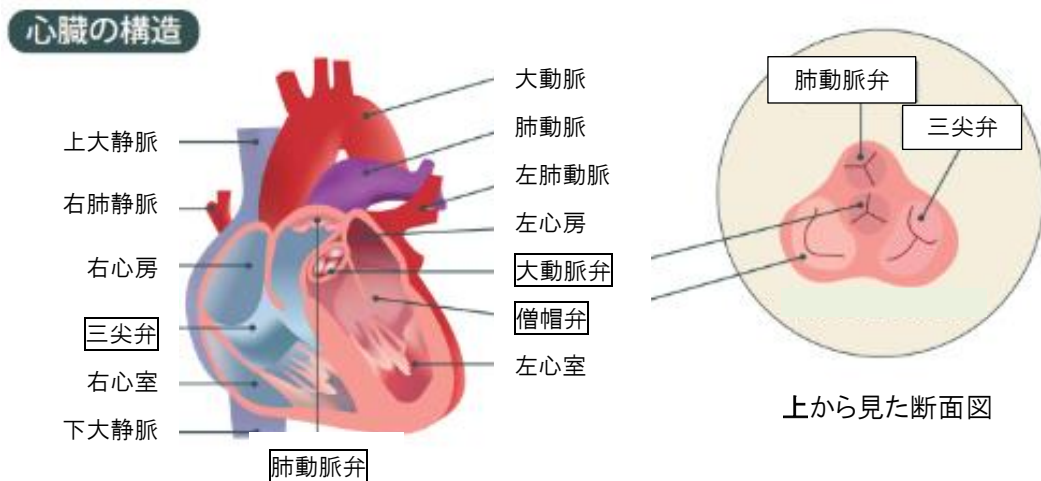
しかし、心臓弁膜症のために聴かれる心雑音の場合には、生命に直結することが間々あります。

心臓には、大動脈弁・僧房弁・肺動脈弁・三尖弁(さんせんべん)と4つの弁がありますが、主に問題となるのは大動脈弁・僧房弁の病気のことが多いです。このうち今回は大動脈弁の病気についてお話させていただきます。

高齢になると大動脈弁が硬くなり開きにくくなってきます。このため弁を通過する血流に異常が生じ雑音として聴かれるようになります。大動脈弁狭窄(きょうさく)症という病気です。

弁の硬化が進行すると、息切れや胸の痛み、動悸や足のむくみなどが出現し、場合によっては意識を失ってしまうこともあります。

この病気の怖いところは相当進行するまで無症状に経過し、症状が出現すると急速に悪化してしまうのです。この弁膜症が原因で心不全を起こした場合、予後は2年くらいといわれています。



原因は動脈硬化やリウマチ熱が多く、当然高齢の方が多いのですが、若い方であっても生まれつき3枚あるべき大動脈弁が2枚しかない方(二尖弁)がおられ、大動脈弁膜症の原因になります。二尖弁の割合は人口の1%程度といわれています。

また、弁の閉じが悪くなり大動脈から心臓内へ血液が逆流してしまう大動脈弁閉鎖不全症という病気もあり、進行すれば同様に息切れやむくみなどの症状が出てきます。

弁膜症は内服薬や食事療法で改善することはなく、進行した場合には手術を行って弁を修繕するか取り替える必要があります。

通常は機械で出来た人工弁や、動物の心膜や弁を利用した生体弁で取り替える方法が一般的ですが、患者さんご自身の心臓を包む心膜を利用することで身体に負担の少ない手術を行っている施設もあります(桐生厚生総合病院)。

これら弁膜症は、ほとんどが心臓エコーで診断がつきます。ベッドのうえに 15 分程度横になっていただき検査用の端子を当てるだけの検査ですので痛みはありません。

心雑音を指摘された、あるいは指摘されたことがある、不安がある、といった方は一度最寄りの医療機関で相談してみてください。

(循環器内科診療部長 村岡 理人)

